

## T19a 局所ボイドの構造と宇宙の加速的振舞い

富田憲二 (京大基研)

最近の銀河分布の観測 (redshift surveys) により、私達が 200 - 300 Mpc の局所的ボイド (低密度領域) の中  
にすることが分ってきた。これに対応して、局所的ボイドをもつ宇宙モデルにおける redshift-magnitude 関係  
を調べ、I型超新星の観測データとの比較を行う。局所的ボイドに含まれる真空エネルギーが正の宇宙定数の働  
きをするので、このモデルにより、I型超新星の観測における、加速的性質は説明できる。

この講演においては、最近の観測 (SDSS, 2dF, etc) の結果、および加速的性質が上記の宇宙モデルの種々の  
パラメーター (ボイドの半径、ボイドの内外の密度比、Hubble 定数の比、等) に、どのように依存するかについ  
て報告する。

### References:

1. K. Tomita, ApJ 529,26-37, 2000 (astro-ph/9905278)
2. K. Tomita, ApJ 529,38-46, 2000 (astro-ph/9906027)
3. K. Tomita. 理論懇シンポジウム集録 (1999年12月) p7 - 12
4. K. Tomita, astro-ph/0011484